

2022年6月23日

第3回の多職種によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）カンファレンスを担当しました。

今回は、50台男性で肺癌の患者さんについてです。統合失調症を患っていますが、お近くのクリニックで治療され、病気のコントロールは良好です。しかし、午前中に起きる事ができず、禁煙もできません。肺癌に対する治療の意思は示すものの、前向きとは言えず、通院も不安定でした。抗がん剤の治療は、有害事象と隣り合わせなので、患者さんの明確な治療の意思が必要です。私を含めた医療・ケアチームのスタッフは、どのように関わるべきかを迷っていました。しかし、これまでのACPカンファレンスを通じて、スタッフらは患者さんの「will」を聞き出す大切さを理解し始めていました。改めて、患者さんの「will」にせまり、“できるだけ自宅で好きなゲームを続けるために抗がん剤の治療を受けたい”思いを聞き出すことができました。それ以来、患者さんの支え方に対するチームの方向性がまとまり、治療のサポート体制が安定しました。

実際に担当したケアチームのスタッフが、場面ごとの思いをそれぞれ熱く語ってくれました。研修医の先生達も、患者さんの「will」をうまく引き出すことの大切さを実感してくれたようでした。少しずつ、カンファレンスの効果が出ているように感じました。（文責；小林正芳）

